

# かきつけ「ほんま」のぼうし

## 「防災ずきん」持ってる？

「関西の小学校は入学のとき、防災ずきんを用意しないでいいんですか」。横浜から大阪市内に一昨年引っ越してきた主婦(36)から、「先生にたずねたら逆に『防災ずきんってどんな物かみせて』といわれ、びっくりした」というお話をききました。たしかに関西ではあまりみません。でもあれば、なにかといいみたいですよ。(吉村千彰)



「東京と大阪では地震にたいする感覚がちがうと思っただ」と話すのは、94年に東京から大阪府箕面市に引っ越した主婦(48)。東京では小学校には防災ずきんを持っていったのに、箕面ではいらぬといわれまし。翌年1月に阪神大震災がおきた後も、ずきんは話題にならなかつたそう。今回の質問者によると、横浜でも小学校や幼稚園で防災ずきんは必需品。厚手の長方形の布2枚をぬいあわせて手作りするほか、春になるといろんな柄の既製品がスーパーでも売られていたそうです。さぶとんやいすの背もたれにし、避難訓練の時にかぶります。横浜市には「地震とわた

長田区のくつメーカー「ラッキーベル社」の防災ずきんと、いすの背もたれにできるピンクのカバー



## さぶとんにも変身強い味方

「したち」という避難方法などを考えさせられる小中学生向けの副読本があり、東京都でも同じような「地震と安全」があります。



建物がかすれ、火の粉がふりそそぐなか人々が逃げまどいました。戦争中の空襲とに似ていました。だから空襲のときに使った防空ずきんを、名をかえて使いはじめたのかもしれない。東海地震が心配された30年前ごろから広まり、ほとんどの小学校で備えています。東海地震で大きな被害が予想される静岡県も、副読

本「地しんのそなえ」があり公立小学校の70%が防災ずきんを採用しています。神戸市教育委員会は阪神大震災後に副読本「しあわせはこぼろ」をつくり、震災を忘れないように教えています。防災ずきんを常備させたり、さぶとんをずきん代わりに避難訓練をする学校はあるみたいですが、市教委は把握していないそ

うです。大阪市教育委員会も同様で、私立の幼稚園や学校では防災ずきんを備えているところはあるかも、というお話でした。



でも、被災地・神戸から防災意識を高めたいと長田区のくつメーカーが去年、こども用の防災ずきんを作りました。ポリエステル製

で衝撃や火の粉にも強いものです。関東で働いた社員が防災の日、子どもがずきんをかぶって訓練するのを見て、その大切さに気がついたとか。春先から「コープこうべ」で売り出し、大人用も考えています。しばらく地震はこない、大丈夫と思っている人はいませんか？ 関西も直下型地震や東南海・南海地震の心配があります。京都大学防災研究所長で人と防災未来センター長の河田恵昭さんは「一体の中で一番弱いのが頭。まず身を守るために防災ずきんは役立つ。ずきんを手で押さえなければ、あぶない物もさわらないから都合がいい。防犯と同じくらい大切な防災。学校や家族で話しあってみませんか。」

★関西の子どもの疑問を調べます。おひな様は左右どちらに置きますか？ ほかに、ひな祭り食べるもの、時期など、地域独特の習慣を教えてください。下記あて先「ほんま？」係へ。

